

弘前大学男女共同参画推進室 Newsletter



弘前大学は2019年5月に「弘前市女性活躍推進企業」に認定されました。

お知らせ 次号から文京町などオンライン化

さんかくつうしんは、2010年2月から弘前大学の全教職員にお配りしてきました。次号のさんかくつうしんVol.24(2021年3月発行予定)からは、文京町地区を中心にオンライン配信に移行の予定です。これからも、弘前大学教職員のワーク・ライフ・バランス支援策や、男女共同参画・ダイバーシティ推進などに関する情報をお届けしてまいります。引き続きご覧いただくと幸いです。

福田眞作学長 インタビュー

「男性が変わらないと、なかなか女性もがんばれない」

8月6日、藤崎浩幸男女共同参画推進室長・農学生命科学部教授が、福田眞作学長に行った男女共同参画推進についてのインタビューをお届けします。

藤崎室長(以下、藤崎)：学長は弘前大学のご出身ですが、学生時代と現在の弘前大学を男女共同参画の観点からみて、どのようなことが変わったとお感じですか？

福田学長(以下、福田)：当時のことは医学部のことしか分かりませんが、女子学生は120人中20人もいませんでした。女性は、一律に強く頭がよく、高い志を持っていた印象があります。最近は医学部も、女性の入学の方が多くなる年もある、というようになりました。当時と比べると、女子学生も多様になったような気がします。

卒業してから、医学部の講座もだいぶ変わりました。例えば、以前は外科系なんか「女性の卒業者はいない」と明言している講座もありましたが、今は、すべての講座が女性に来ていただかないと成り立たないような状況です。積極的に女性を呼び込んで、女性も元気で楽しく仕事ができるような職場環境をつくる努力はしています。

藤崎：具体的にはどのような努力を？

福田：例えば昔は、男性が部屋で着替えて、女性は更衣室がないのでトイレで着替えるというような状況でした。今は、男性が女性の前で着替えをしないとか、各講座が女性専用更衣室をつくったり。あとは、育休。昔は「産前産後8週間したら出てこい」という状況でしたが、今は、育休も比較的十分に取れるよう各講座が取り組んで、復帰してくれる女性医師が増えてきました。

藤崎：なるほど。私は、弘前大学では初めての男性の男女共同参画推進室長です。男性室長として、女性の社会進出はもとより、男性の育休取得も含めて、男性の家庭進出を拡大する手立てはないかと考えています。学長はどう考えられますか？

福田：社会では、男性が育休を取ることに視線は、ちょっと冷たい感じがするんですよね。もっと自由に取れる雰囲気になればいいと思います。

藤崎：キャンパスでの視線はいかがですか？

福田：ここ10年で、医学研究科で育休を取得した男性は確か1人しかいません。まだまだ取りにくい現状がありますよね。講師・准教授クラスや管理職クラスが率先して取得しないと、若い人が取りにくい雰囲気だと思います。人が潤沢にいれば、1人が育休を取得してもやりくりつくんですけど…。そこは難しいけれども、やっぱり、意識を変えていかなきゃならないと思いますね。

藤崎：人材に余裕のあるところは今はないと思うので、代替要員をどうす

るかとか、どうしても周りの人へのしわ寄せになってしまう現状があるので、性別にかかわらず取りにくいかなと思います。それにしても、意識の問題は大きいですね。

福田：僕、妻も医者なんですよ。私が医者になった当時、男社会で、僕自身もそういう配慮がなかったんです。妻は今も医者はやっていますが、彼女のキャリアが、育児や家庭のために途切れたということも、反省してらんです。本当は優秀な能力を持っていたはずなので、何とか彼女のキャリアを形成させることができていたら、と、いま反省しています。男性が変わらないと、なかなか女性もがんばれない。それは、身をもって感じています。いまだに女房は言うんですよ、「あなたはいいわね、好きなことやっていて」って。

藤崎：反省は私も多々あります。男性の意識・姿勢についても、若い世代に伝えていく必要がありますね。関連して、佐藤前学長に続いて、内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同されましたが、賛同の理由を教えてください。

福田：お話ししたように、自戒の気持ちもあります。やはり、社会、大学、病院を含めてこれだけ女性が進出する社会では、女性を支援する仕組みがなければ、その組織自体が能力を発揮できなくなっていきます。支援の仕組みが、もっともっと増えていけばいいと思っています。アイデアがあったら、ぜひ提案してください。考慮していきたいと思っています。

藤崎：最後に、弘前大学の男女共同参画推進について一言お願いします。

福田：弱い立場に置かれた構成員に対する取組が見えない気がするんですよ。数値目標はクリアしていても、当事者たちが楽しく能力を発揮できているかが見えない。男女共同参画推進室は、それを見える化して、その方たちがますます弘前大学で働きたいと思っただけのようにがんばってほしいと思っています。



(左) 藤崎浩幸室長(聞き手) (右) 福田眞作学長

各種支援策 ぜひご活用ください

令和2年度も次のようなワーク・ライフ・バランス支援や男女共同参画推進の各種取組を進めています。制度概要や申請書類（様式）、手続き等の詳細は男女共同参画推進室ウェブサイトやご案内のメール等でご確認ください。ご不明な点等はお気軽に男女共同参画推進室にお問合せください。ぜひ積極的に制度をご活用ください。

子育て中の方対象

託児利用料補助(随時受付しています)

- ◆内容：勤務日の病児病後児保育利用、休日勤務を命ぜられたときの託児利用、通常の勤務時間を超える出張または宿泊を伴う出張を命ぜられたときの託児利用、学会参加のための託児利用にかかる費用を補助します。
- ◆対象：弘前大学の教職員（託児を利用する子は同居する小学校6年生以下の子）

子育て・介護中の方対象

研究支援員配置

- ◆内容：ライフイベント（出産・育児・介護）により多忙を極める研究者の研究活動の維持・促進支援のため、実験・調査・データ入力等の研究補助業務にあたる研究支援員を配置します。令和3年度分の申請は2月19日17:00まで。
- ◆対象：以下のいずれかに当てはまる弘前大学の研究者（科学研究費補助金申請資格を有する方で常勤雇用されている方）
 - ①母子健康手帳取得者または小学校6年生以下の子を養育している方（子の学年は、支援を受ける年度。同居・別居に関わらず当該研究者が育児に関わっている場合に限り）
 - ②家族に要介護者がいる者（同居・別居に関わらず当該研究者が介護に関わっている場合に限り）

北東北女性研究者研究・交流フェア2020を開催しました

9月2日、Zoomにて「北東北女性研究者研究・交流フェア2020」を開催しました。この企画は、弘前大学が岩手大学などと2016年度から実施している文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の取組のひとつとして、地域の女性研究者の研究力・研究リーダー力向上、女性研究者のネットワーク構築の支援を目的としたものです。

当日は、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の共同実施機関やおもろダイバーシティ研究環境推進ネットワーク機関などから、82名にご参加いただきました。石川隆洋理事（社会連携担当）の開会挨拶に始まり、本学・岩手大学の女性研究者を研究代表者とする本年度の共同研究採択課題13件と一般研究2件の研究発表、塩見美喜子東京大学大学院理学系研究科教授を講師にお迎えしての研究リーダー力向上支援セミナー、①研究力アップ、②キャリアアップ、③WLB、④ダイバーシティ研究環境推進実務のテーマごとに小グループに分かれての女性研究者交流

会を行い、最後に、宮本ともみ岩手大学副学長・男女共同参画推進室長から閉会挨拶をいただきました。

来年度の北東北女性研究者研究・交流フェアは、岩手大学がホストとなり開催される見通しです。

参加者の声

- 出産や育児に対して不安をもっている女性研究者が多いように感じたので、そのような相談をもっと聞いてあげたいと思いました。相談できる関係の研究者が近くにいないように感じました。そのようなコミュニティを作っていただきたいなと思います。
- 例年ポスターの前で議論でき、そこで情報や人脈も広がったのですが、オンラインでは踏み込んだ議論ができないので残念です。
- 全体的にもう少し時間があれば、より有意義なものになった。県外に帰省中で実際に弘前に行くことはできなかったため、web開催でよかった。

さんかくダイアログ開催中 ぜひご参加ください

10月29日、Microsoft Teamsにて今年度第1回「さんかくダイアログ」を開催しました。「さんかくダイアログ」は、昨年まで行ってきた「さんかくカフェ」について、装いを新たに再出発した企画で、男女共同参画に関して、気軽に参加でき自由に語り合える（ダイアログ[対話]の）場を提供したいという考えで実施しているものです。

「新型コロナウイルスと私たちの働き方・学び方」をテーマに13人が参加し、新谷ますみ教育学部准教授(男女共同参画推進室員)

と吉田澤奈さん(医学部保健学科3年)から話題提供いただいた後、参加者それぞれの春以降の働き方や学び方の状況や気持ちなどについて情報・意見を交換しました。

さんかくダイアログは、年度内、オンラインで毎月開催しています。詳細は、男女共同参画推進室ウェブサイトやTwitterで情報を発信しています。ぜひご参加くださるとともに、周囲の教職員や学生にもご案内ください。

今後の予定

- ◆第3回 12/21 18:00~19:00
テーマ：子育て中の教職員からみた弘大
話題提供者：子育て真っ最中の教職員
- ◆第4回 1/19 12:00~13:00
テーマ：子育て世代へのサポートのあり方
話題提供者：棟方ふみ子先生
(前弘前厚生学院こども学科長)
- ◆第5回 2月 12:00~13:00(日にち調整中)
学長・女性研究者懇談会
- ◆第6回 3月 18:00~19:00(日にち調整中)
テーマ：遠隔介護(介護とワークの両立)
話題提供者：調整中

5年に1回の男女共同参画推進意識・実態調査 ご協力ありがとうございました

弘前大学の全教職員を対象に6月25日から約1か月にわたって実施した5年に1回の「弘前大学男女共同参画推進のための意識・実態調査」には、2,319名にご回答いただきました(回収率85.7%)。ご回答ありがとうございました。回答票配布にあたっては、事務支援・検収センターのみなさまにご協力をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

お寄せいただいた回答は現在、集計・分析を進めているところです、

新型コロナウイルスのワーク・ライフ・バランスへの影響についての問いでは、回答者の約51%が「影響があった」と答えました。「影響があった」回答者が選択した「影響」の具体的内容(複数回答)のトップ3は、「超過勤務・休日出勤の増加」(389人)、「家事時間の増加」(292人)、「勤務時間の減少」(217人)でした。詳細な報告書は、年度内に男女共同参画推進室ウェブサイトにて公開する予定です。